

～開業奮闘記～

誰が興味あるねん

八 治 屯

第48話 「思い出のO坪君2」

前回からの続き

かくして小6でまた同じクラスになったO坪君ですが、やはりあの性格は変わっていないどころか、さらにパワーアップしているように見受けられました。

僕の小6の時の担任の堀口先生はパワハラ全開の先生で、機嫌の悪い時は「今日はお前らに当たりまくるからな！！」と、朝イチから理不尽極まりない宣戦布告をしてくる人でした。

本当にサディスティックな先生で、機嫌の悪い時には決まって意味不明な重圧の中で生徒に課題をやらせるんですが、そうしているといつも決まってO坪君が頭を抱えて唸り出し、ある日ついにO坪君は爆発してしまいます。

「もうこんなのは嫌だ～～～！！！！」

そう叫び、彼はドアを蹴り飛ばして教室から飛び出してしまったんです。

さすがにざわつくクラス一同。

しばらくしたら頭の冷えたO坪君が戻ってきたのですが、当然堀口先生はブチギレ。

「オドレ何さらしとんじゃあつつっっっっっっ！！！！」

さらに間の悪い事に、元々建て付けの悪かった教室のドアを蹴り飛ばしたもんだから、ドアは全く閉まらなくなってしまったんです。さらにブチギレてO坪君にガン詰めする堀口先生。

さてどうなるか・・・！？と思っていたら、O坪君は我々の想像のはるか斜め上の行動をとったのです。

「ドアくん僕が悪かった！！君を蹴ったりして悪かった！！この通り謝るから、どうか元通りに治ってくれ！！」

と、号泣しながらドアに向かって土下座しはじめたのです。

呆気にとられるクラス一同。

「お、O坪、お前ちょっと落ち着けっっ！！」と、明らかに引いてる感じの堀口先生。

結果、この勝負は奇策を繰り出したO坪君の逆転完全勝利となったのです。

この時僕は、「ブチギレている相手には予想外の行動で怒りを煙に巻く」という方法をO坪君から学びました（後に、実際にビジネスの場でこの手法を何度か使うこととなる）。

思い出はいつの日もビターです。

気になるその後のO坪君ですが、中学に上がったたら大人しくなってあまり目立たなくなり、高校に入ったら何の個性もないフツーの生徒となってしまったということです。

あのまま個性を大事にしていたら、もしかしたら彼は今頃何らかの世界の大物になっていたのでは・・・？と、たまに考えることがあります。

どこかのエライ人テレビで喋ってる 「今の若い人には個性が無さすぎる」

僕らはそれを見て一同大笑い 個性があればあるで押さえつけるくせに

THE BLUE HEARTS [ロクデナシII]より抜粋